



2016年3月9日

PI 9161 RB Res/SL

IoT カンファレンス 「Bosch ConnectedWorld」がベルリンで開催 IoT サービスをワンストップで提供： ボッシュ、IoT サービス向けのクラウドを発表 コンピューティングセンターをドイツに設置

- ▶ ボッシュ CEO デナー：「『Bosch IoT Cloud』は大きなマイルストーン」
- ▶ カギとなるのはプライバシーとデータセキュリティ
- ▶ ドイツの技術革新力を高める『Bosch IoT Cloud』
- ▶ ソフトウェアに関する専門知識と IT インフラが強み

ベルリン/シュトゥットガルト(ドイツ) – ボッシュは、インターネットベースのサービス向けのクラウド『Bosch IoT Cloud』を導入します。ボッシュは今後、このクラウドを通じてコネクテッドモビリティ、コネクテッドインダストリーやコネクテッドビルディング向けのさまざまなアプリケーションを提供していくこととなります。この最初のクラウドはドイツに置かれます。3月9日(水)にベルリンで開催された Bosch ConnectedWorld で、ボッシュ取締役会会長のフォルクマル・デナー (Volkmar Denner) はこう述べました。「私たちは現在、ネットワーク化された世界のためにボッシュの持つ最先端のテクノロジーを結集したサービスをワンストップで提供しています。この『Bosch IoT Cloud』により、当社の持つソフトウェアの専門知識に必要な最後の要素が補完され、ボッシュはネットワーク化および IoT 向けソリューションをフルサービスで提供できるようになりました」。ボッシュは、IoT に必要な3つのレベル(センサー、ソフトウェア、サービス)すべてにおいて活発に事業を展開している世界で唯一の企業です。ボッシュ・グループは、ネットワーク化を実現するための基礎技術、たとえば[センサー](#)やソフトウェアを提供するだけでなく、それをベースにした新しいサービスの開発を進めています。「ネットワーク化ソリューションで成功した大きな要因は、その拡張性です。ビジネスモデルは、必要に応じて速やかに変化しなくてははいけません。この『Bosch IoT Cloud』は、現在のボッシュにとって重要なインフラであり、そして重要なマイルストーンでもあると考えています」と、ボッシュの取締役会で研究開発・先端エンジニアリングを担当するデナーは述べました。この『Bosch IoT Cloud』は、プラットフォームやソフトウェアなどの技術的インフラで構成されています。最初はこれをボッシュのインハウスソリューションのために利用

することになりますが、2017 年から他の一般企業向けのサービスとして活用していく予定です。

クラウドをドイツに設置

デナーは、クラウドをドイツに設置することを意図的に決定したことを強調しました。「多くの企業やお客様は、セキュリティの懸念からクラウドテクノロジーやネットワーク化ソリューションの利用を避けているといいます。その懸念を払拭してくれるのが、『Bosch IoT Cloud』です」。ボッシュは、この IoT クラウドをシュトゥットガルト近郊にある自社のコンピューティングセンターで運用しています。「ユーザーは、自分のデータがしっかり保護され、安全な状態に保たれていることを把握したいと考えます。そのため、私たちが約束するセキュリティを、常に最新のレベルに保っています」とデナーは説明します。このための法的枠組は、ドイツと EU のデータセキュリティ規制をベースとしています。

ネットワーク化された世界の頭脳となる「Bosch IoT Suite」

『Bosch IoT Cloud』の核となっているのは、ボッシュが開発した『Bosch IoT Suite』です。この『Bosch IoT Suite』は、ウェブ接続が可能なモノを認識し、データを組織化して交換できるようにします。これによりさまざまなサービスやビジネスモデルの実現が可能になるほか、大量のデータ、つまりビックデータも分析・処理して管理することができます。「『Bosch IoT Suite』はネットワーク化された世界の頭脳に相当し、インターネットに接続したデバイス、ユーザーや企業が必要とするあらゆる機能を提供できます」とデナーは述べています。たとえば、損傷の兆候が報告された場合、機械を修理するための予防措置を講じるなど、自立的に決定を下す規則性を『Bosch IoT Suite』に保存することもできます。ボッシュはもちろん、お客様もすでにこのプラットフォームをベースとした数多くのソリューションやプロジェクトを運用しています。なお、現在 500 万台以上のデバイスや機械が『Bosch IoT Cloud』に接続されています。

ネットワーク化された世界に対応するボッシュの IoT

デナーはカンファレンスに集まった 800 人の聴衆に対して、このデジタル革命を脅威と捉えるべきではないと強調しました。「デジタル革命と加速するネットワーク化は、私たちにとって非常に大きなチャンスです」。特に強力な産業基盤とハードウェアに関する卓越した専門知識をもつ企業には、これまでの事業を広げるだけでなく、まったく新しい分野に参入するチャンスが訪れます。「そのための重要な前提条件となるのは、社内でソフトウェア／IT に関する専門知識を持っていることです。そしてボッシュは、長年にわたりこうした能力に磨きをかけ続けています」。

さまざまな可能性とビジネスモデル

ボッシュはこれまでも、ネットワーク化された世界のためのさまざまな製品やソリューションを提供してきました。たとえばボッシュのスマートホームシステムは、自宅の室温をリアルタイムでユーザーに伝えることができ、ユーザーは帰路の途中に室温を調整することができます。『Bosch IoT Cloud』で実行されているもうひとつのソリューションは、空調設備サービスエンジニア向けに設計されています。このソリューションにより

エンジニアはボッシュが管理する空調システムに遠隔からアクセスできるようになり、故障発生時に故障の原因を突き止めることができるようになります。つまり、エンジニアは初回の訪問時に修理に必要なスペアパーツを持参し、その1回の訪問で修理を済ませることができます。また、これによりサービスコストを抑えられることから、顧客のメリットにもなります。

『Bosch IoT Cloud』は、アスパラガス畑に設置されたセンサーのデータにも活用することができます。土壌の正確な温度を把握できれば、農家は収穫量を増加させ、利益増につなげることができるからです。『Bosch IoT Cloud』はまた、シュトゥットガルトの通勤列車網におけるパーク&ライド施設の利用可能な空き駐車スペースを示すオンラインマップも作成しています。駐車スペースが空いていることをセンサーが検知すると、その情報がクラウドに送信され、マップにリアルタイムで情報がアップデートされ、ユーザーはスマートフォンから最新情報にアクセスできます。もうひとつの例として、トラックのドライバー向け駐車場予約サービスがあります。駐車できる休憩所を探したい場合、トラックが『Bosch IoT Cloud』に所在地の情報を送信し、最寄りの利用可能な駐車スペースを予約して、その情報をドライバーに伝えます。「こうした数々の例を通じて、『Bosch IoT Cloud』が提供するサービスにより補完された、ネットワーク接続に対応したデバイスはIoTビジネスモデルが成功するための基礎であることがお分かりいただけると思います。ネットワーク化ソリューションは、人々の生活の質を向上し、資源の保護につながるのです」とデナーは述べました。

背景:

クラウドコンピューティング

クラウドコンピューティングの場合、データやプログラムは自宅やオフィスのコンピューターではなく、クラウドコンピューティングセンターに保管されます。このセンターの運用事業者は、こうしたデータの保護と管理運営の責任を負い、処理を実行するために必要なシステムを構築するほか、必要なプログラム、データセキュリティやバックアップの対策を講じます。これにより、顧客はデータ運用にかかるコストと時間を著しく削減することができます。こうしたクラウドテクノロジーとクラウドプラットフォームは、アプリケーションを拡張しやすく、シンプルで速やかに処理するための基礎を形成しています。

産業界のエキスパートが集い、技術の実現を語り合う場「Bosch ConnectedWorld」

Bosch ConnectedWorld はIoTをテーマにした年次カンファレンスで、今年も世界各国から約800人のエキスパートがベルリンに集まり、アプリケーションに関連した最新のテーマや新しいビジネスモデルについて意見を交換しました。会議では数々の成功事例が発表され、IoTのビジョンをどのように実現できるかを示す場となりました。

報道用画像:1-CR-21570_1、1-CR-21633_1、1-BBE-21802_1、1-BBE-21804、1-BBE-21871、1-BEG-21866、1-BEG-21859-d、1-RB-21911、1-RB-21910、1-RB-21913、1-RB-21915、1-RB-21916、1-BBM-21502_1、1-CM-21824

報道関係対応窓口:

Thilo Resenhoeft

電話:+49 711 811-7088

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2015年の従業員数は約375,000人（2015年12月31日現在）、暫定決算報告での売上高は700億ユーロ（約9.4兆円*）となっています。事業はモビリティ ソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社約440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売/サービス代理店のネットワークを加えると、世界の約150カ国で事業を展開しています。この開発・製造・販売のグローバルネットワークが、ボッシュのさらなる成長の基盤となっています。2015年にボッシュは全世界で約5,400件の国際特許の基礎特許（第一国出願）を出願しています。私たちボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて人々の生活の質を向上します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」-人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ（1861～1942年）がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

*2015年の平均為替レート(1EURO=134.3円)で換算

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)